

平成29年11月22日
(2017年)

保護者の皆さまへ

吹田市立青山台中学校
校長 田 中 実

平成29年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「平成29年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と数学に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

●国語《概要》

◎国語A（『知識』に関する問題）

生徒の平均正答率がすべての観点において全国平均値を上回っていることから、出題された学習内容を十分に理解していると考えられる結果であった。

◎国語B（『知識の活用』に関する問題）

生徒の平均正答率は、すべての観点において全国平均を上回っている。しかし、「書くこと」を問う設問においては、A問題に比べると、無回答率が高くなっている。一方で、全国平均に比べると無回答率もかなり低く、意欲的に学習に取り組む姿勢がうかがえる。

●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

- ・国語への関心・意欲・態度について、すべての設問において全国平均を上回っており、成果につながっていると思われる。
- ・話すこと・聞くことにおいては、すべての設問において全国平均を上回った。しかし「相手にわかりやすいように語句を選択して話す」という短答式の設問に対する無回答率がやや高いので、今後力を伸ばせるように取り組む。
- ・書くことにおいてもすべての設問において、全国平均を上回っている。しかし「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」という記述式の設問に対する無回答率がやや高くなっている。
- ・書く問題になると無回答率が少し高くなるが、書く問題を最後まで書こうと努力した生徒が80%いたことをふまえ、書く活動をふやし、自信をもたせるようにする。
- ・読むことにおいては無回答がほとんどなく、意欲的に問題に取り組んでいる。また、すべての設問において全国平均を上回っている。ただ「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」という記述式の設問において、条件を読み解く力がやや低いことが課題である。全体的に基本的な読解力はあるので、長文に対しての読解力も伸ばせるようにする。
- ・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項においてはほとんどの設問における正答率が全国平均より高く、言語事項の定着ができています。
- ・漢字に関する知識が低いので、小テストなどで反復演習を行う。

●数学《概要》

◎数学A（『知識』に関する問題）

生徒の平均正答率は、全国平均をほとんどの項目において上回っており、学習内容を理解し、定着しているものと思われる。

また、無解答率が非常に低く、ここからも意欲的に学習に取り組んでいることが伺える。

◎数学B（『活用』に関する問題）

A問題同様、ほとんどの項目において、平均正答率が全国平均を上回る結果となり、十分に学習内容を理解し、定着しているものと思われる。また、無解答率についても低く、意欲的に学習に取り組んでいることが伺える。

しかし、「図形」「数と式」に関する問題では、全国平均は上回っているものの、課題が残るものが見受けられた。

●数学《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

- ・数学への関心、意欲は非常に高く、より高度な内容を要求する姿勢が伺える。更に、数学的なものの見方や考え方を鍛えるため、いろいろな課題に取り組んでいきたい。
- ・数と式の領域では、基本的な計算問題はしっかりと定着していることが伺えるが、図形と関連した問題を文字を使って数式化し解く力に関して、類似問題を多くこなすことで実力をつけていきたい。
- ・図形の領域では、図形の基礎及び三角形の合同や角度の問題を解く力が充分についている。しかし、説明をする部分で課題が見られるので類似問題をこなすことで、作図問題に力を入れていきたい。
- ・関数については、基礎が十分に定着しており、特にグラフや変域に関しては理解度が高い。しかし、表やグラフと事象との関連した問題に課題が見られるので、丁寧に説明指導をしていきたい。
- ・資料の活用に関しては、資料全体をしっかりと見る力は十分に定着している。ただ、与えられた情報から必要な情報を選択し、事象に即して解釈するところに少し課題があるので、基本語句の理解に力を入れ、丁寧に説明していきたい。

全ての領域において、基本的な力は十分に定着している。応用的な力もある程度備わっており、興味・関心の度合いも高い。今後、数学にもっと興味が持てるように、努力していきたい。

2 生活習慣や学習、学校生活及び自分自身のこと等に関する質問紙調査の傾向

【生活習慣や学習について】

- ・「朝食を毎日食べている」生徒の割合は高く、ほとんどの家庭で、朝食をとり登校する生活習慣が定着している。
- ・学校の授業時間以外の勉強時間は、全国平均より多い。また「自分で計画を立てて勉強している」という設問への肯定的な回答も多く、学習意欲の高さと、学習習慣の定着が伺える。
- ・携帯電話やスマートフォンの使用時間は全国値より少ない。

【学校生活や自分自身について】

- ・「学校に行くのが楽しい」「学校で友達と会うのが楽しい」との設問で「そう思う」と答えた生徒が多く、全国値より高い結果であった。
- ・「好きな授業がある」「自分の考えを発表する機会がある」「話し合う活動を行っている」等の授業に関する設問への回答が、全国及び大阪府の平均より少ない結果となった。また、「先生は理解していないところについて、わかるまで教えてくれる」という設問に関しても同様な結果となった。
- ・「人の役に立つ人間になりたい」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」という設問では、全国の平均値より高い結果であった。また、「友達の話最後まで聞く」「友達の考えを受け止めて自分の考えを持つ」という設問ではほとんどの生徒が肯定的な回答をしている。
- ・「自分には良いところがある」など、自分自身のことを問う領域の設問では、全国平均を上回り、自己肯定感が強いことが伺える。特に、「ものごとを最後までやり遂げて、嬉しかったことがありますか」との設問にほぼ全員が肯定的な回答をしており、成功体験から自信をつけ、前向きに取り組む姿勢へと繋がっていると思われる。

3 今後の取り組み

本校の学校教育目標「豊かな人間性を育む」「主体的に学習する態度と自主性を養う」「たくましく生きるための力を育む」を達成すべく、今回の調査結果をしっかりと分析し、今後の教育活動に活かしていきます。

教科に関する結果と、「わかるようになりたい」という生徒の学習に対する意欲を踏まえ、具体的な取り組みとしては、習熟度別少人数授業やチームティーチングなど、ひとり一人に応じたきめ細かな指導や、わかる授業の工夫と、学ぶ意欲を高める授業づくりをさらに進めてまいります。

また、生活習慣や学習等に関する質問紙調査の結果を踏まえ、自己有用感とコミュニケーション能力を高める行事に加え、生徒の生きる力(総合的人間力)の育成のため、授業研究と工夫に取り組み、「話し合う」「発表する」等のアクティブラーニングを取り入れた授業に取り組みたいと思います。同時に道徳の授業や人権教育、体験学習による心の育成にも継続して力を入れていきたいと思っております。

ご家庭におかれましても、今後ともご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。